

女川原子力発電所第2号機 工事計画審査資料	
資料番号	O2-他-F-01-0003_改4
提出年月日	2020年7月20日

工事計画認可申請に係る設置変更許可審査からの申送り事項

No.	条文	項目	内容	該当資料 (設置変更許可)	関連する 会合 or 日	説明項目			
						分類	管理No.	理由	
1	4条	地下水	地下水位低下設備に係る以下の事項について詳細設計段階で説明する。 ●基本設計方針 ●耐震性に関する以下についての説明 ・地下水位の設定 (揚水井戸・ドレーンについて地盤の支持性能に係る確認結果を併せて記載) ・地下水位低下設備の耐震性(耐震計算書)	4条-別紙18-添付3-13.23~ 25.補8-1,補9-1	2019/7/30	③	A	【2-1】	女川特有の地下水位低下設備の設備構成と耐震性、その機能を考慮して設定した設計用地下水位の設定結果等について、新たな説明が必要となるため
2			各施設等に係る以下の事項について詳細設計段階で説明する。 ●設計用地下水位の設定 ●耐震性に関する説明書(対策を行う場合はその説明を含む) ●アクセスルート機能維持に係る評価結果						
3	4条	竜巻防護ネット (耐震評価)	時刻歴応答解析を実施して地震時挙動を確認するなどしてSRSS法の適用性について詳細設計段階で説明する。	4条-別紙5-添2-1	2019/4/16	①	A	【2-2】	詳細設計の結果と合わせて改めて詳細設計方針(スペクトルモーダル解析を適用した設計等)の説明が必要となるため
4			審査結果を踏まえて設定する海水ポンプ室の地震応答解析モデルによる解析結果を竜巻防護ネットの耐震設計に適用するとともに、地盤の不確かさ等の影響について詳細設計段階で説明する。	4条-別紙5-37					
5			スペクトルモーダル解析を適用することの妥当性については、時刻歴応答解析結果と比較するなどして検証し、詳細設計段階で説明する。	4条-別紙5-添2-1					
6			風荷重については、竜巻防護ネットの構造を踏まえて影響の程度を確認し、地震時に組合せを考慮すべきか詳細設計段階で説明する。	4条-別紙5-添2-1					
7	6条	竜巻防護ネット (構造強度評価)	飛来物衝突時の向上反力に対して、フレームが浮き上がらないことを詳細設計段階で説明する。	6条(竜巻)-別添1-添付3.7-別紙2-27	2019/7/4	①	A	【2-2】	ゴム支承を採用している竜巻防護ネットであり、女川2号の特有な構造を有している。設置許可段階で構造成立性、詳細設計段階における設計方針について説明しており、これらを踏まえた設計の説明が必要となるため
8			衝突方向に対する影響について、ガイドの考え方を踏まえて詳細設計段階で説明する。	6条(竜巻)-別添1-添付3.7-別紙6-1					
9			ゴム支承の衝撃荷重に対する試験内容について、詳細設計段階で説明する。	-					

工事計画認可申請に係る設置変更許可審査からの申送り事項

No.	条文	項目	内容	該当資料 (設置変更許可)	関連する 会合 or 日	説明項目						
						分類	管理No.	理由				
10	4条	耐震設計 (S/C内部水)	詳細設計段階において、バルジングによるS/Cへの影響を解析的に分析し、地震応答解析に3次元はりモデルを適用することの妥当性を確認する。	4条-別紙4-参7-5	2019/4/2	A	【2-3】	詳細設計の結果と合わせて改めて詳細設計方針(3次元はりモデルを用いたスペクトルモーダル解析を適用した設計等)の説明が必要となるため				
11			詳細設計段階において、ボックスサポート付け根部におけるS/Cシェル局部変形による影響を定量的に確認することによって3次元はりモデルの妥当性を確認する。	4条-別紙4-参7-8								
12			詳細設計段階において、3次元はりモデルを用いた動的解析に当たっては、高次モードを考慮したスペクトルモーダル解析を行い、高振動数の影響確認を行う。	4条-別紙4-参7-9								
13			ボックスサポートの応力評価点は、今回の改造工事等を踏まえて適切な位置を評価する。	4条-別紙4-参9-5	2018/4/6				③			
14			有効質量を適用する設備及びスロッシングの影響範囲を検討する設備について、詳細設計段階でその影響を確認する。	4条-別紙4-参6-3	2018/4/25							
15			評価手法の違い(NASTRANとOpenFOAM)による有効質量比の差異によって、サプレッションチェンバの固有周期が変動することを踏まえ、耐震評価に用いる床応答スペクトルとの関係にも配慮し、地震荷重を算定する。	4条-別紙4-24	2019/1/29							
16			OpenFOAMによる算出されるスロッシング荷重は、水平1方向+鉛直方向のスロッシング荷重を $\sqrt{2}$ 倍の荷重を考慮する。	4条-別紙4-28	2019/1/29							
17	4条	耐震設計 (波及影響)	下位クラス設備の損傷によって、内部流体の外部放出に伴う機械的荷重が負荷する可能性があるため、上位クラス施設への影響について評価を行う。	4条-別紙2-33	2019/4/16	E	【E-1】	他社で波及影響評価に係る共通的な設計評価に対する新規審査実績があるため				
18			CR貯蔵ハンガ、CR貯蔵ラック、燃料チャンネル着脱機について波及的影響を検討する。	4条-別紙2-113								
19			ガスボンベ庫等の小規模建屋は設置計画を踏まえて波及的影響を及ぼすおそれがあるか確認する。	4条-別紙2-添5-2								
20			詳細設計段階において、設置、撤去予定の施設の状況も踏まえ、施設の抽出結果について再度整理する。	4条-別紙2-添5-1	2019/5/21				③			
21			中央制御室における天井照明を支持する部材等について、上位クラス施設へ影響を及ぼすおそれのある施設は、基準地震動Ssに対して落下しないことを確認する。	4条-別紙2-114,115	2019/4/16				E	【E-2】	他社で波及影響評価に係る共通的な設計評価に対する新規審査実績があるため	
22			大物搬入口エリアについて原子炉建屋の一部として耐震性を確認する。	4条-別紙2-参1-2	2019/5/21				①	E	【E-3】	大物搬入口の耐震評価は他社プラントでの新規審査実績があるため
23			大物搬入口と原子炉建屋の基礎の一体化部分の力のやり取りや基礎躯体部分の液化化影響の有無を含めた周辺地盤の相互作用の影響について確認した上で、それらの影響も踏まえて気密性を確保する。	4条-別紙2-参1-3								

工事計画認可申請に係る設置変更許可審査からの申送り事項

No.	条文	項目	内容	該当資料 (設置変更許可)	関連する 会合 or 日		説明項目		
							分類	管理No.	理由
24	4条	耐震設計 (原子炉本体基礎の復元力特性)	詳細設計段階において、RPVの水位及び燃料状態は炉心損傷や冷却材喪失は考慮せず、DBA時と同条件とし、PCV水位は有効性評価における水位が最大となるケースを包絡するように設定したうえで、重大事故時の地震応答解析モデルによる評価を行う。	4条-別紙6-添5-6	2019/3/5	①	E	【E-4】	他社で原子炉本体基礎の復元力特性としてコンクリート部材の剛性低下等を考慮する共通的な設計評価に対する新規制審査実績があるため
25			RPVペDESTALの内部に充填されたコンクリートについて、建屋側と同様に初期剛性低下を考慮した地震応答解析を行い、影響を確認して設計に反映する。	4条-別紙6-27					
26			詳細設計段階において、ペDESTAL内部のコンクリート実強度に対する影響についても確認する。	4条-別紙6-27		③			
27			詳細設計段階において、有効性評価における原子炉建屋内の温度分布を踏まえ、原子炉建屋のコンクリート部材の剛性を低下させ評価する。	4条-別紙6-添5-7					
28	4条	耐震設計 (基本方針)	乾燥収縮及び地震影響によるひび割れを踏まえた機器・配管系の耐震評価について、詳細設計段階で説明する。	4条-別紙11-102,103	2018/11/29	①	B	【2-6】	設置変更許可審査で説明した詳細設計段階における対応方針(建屋のひび影響を踏まえた応答解析結果を用いた設計)に変更がないが、具体的な評価結果を示す必要があるため
29			機器・配管系の設計用地震力の設定に当たっては、建屋、地盤物性及び原子炉本体基礎の物性をパラメータとして不確かさケースを検討する。	4条-別紙11-102,103					
30			スペクトルモーダル解析における高次固有振動数の評価にあたり、1次固有周期が20Hz以下で2次以降が20Hz以上となる設備を選定し、50Hz以下の範囲で作成したFRSを適用した耐震評価を実施することで、20Hz以下のFRSを用いた耐震評価との比較検証を行う。	審査会合 PPT P13					
31	4条	耐震設計 (使用済燃料貯蔵ラックの減衰定数)	設計用減衰定数として、基準地震動の確定条件に基づき適用性の確認を行い、詳細設計段階で説明する。	4条-別紙7-30	2018/6/7	③	D	【D-1】	他社で試験に基づき設定した減衰定数を用いた設計に対する新規制審査実績があるが、設定の考え方について女川2号機向けの試験結果を示す必要があるため
32	4条	耐震設計 (建屋)	原子炉建屋以外の建屋の地震応答解析モデルの策定は、原子炉建屋における検討と同様の考え方を適用することによって構築しており、その妥当性を詳細設計段階で説明する。	4条-別紙11-98					
33			新設建屋の地震応答解析においては、基本ケースとしては地震の影響を受けていないことから設計剛性(設計基準強度)を用いた地震応答解析モデルを採用する。 ただし、念のため、不確かさケースとして、初期剛性の低下を考慮することで設計における保守性を確保することとしており、詳細設計段階で説明する。	4条-別紙11-100	2019/2/14	③			

工事計画認可申請に係る設置変更許可審査からの申送り事項

No.	条文	項目	内容	該当資料 (設置変更許可)	関連する 会合 or 日		説明項目		
							分類	管理No.	理由
34	4条	耐震設計 (建屋:屋根トラス)	詳細設計段階においては、必要に応じて剛性比例型以外の減衰(例えば鉛直1次と2次で規定したレイリー減衰)を用いて、高次モードの影響を確認する。	4条-別紙13-27	2018/9/25	③	E	【E-6】	屋根トラス及び基礎版の評価に弾塑性解析を適用することは他社プラントでの新規制審査実績があるため
35			屋根トラスの主要部材については、おおむね弾性範囲となる見込みであるが、一部の部材が弾性範囲を超える場合については、詳細設計段階で説明する。	4条-別紙13-37	2018/9/25				
36			屋根トラスの地震応答解析モデルにおいては屋根スラブの面外剛性は考慮していないが、詳細設計段階では面外剛性を考慮した解析により、屋根スラブの応答性状や応力分布などを説明する。	4条-別紙13-10	2018/11/29				
37	4条	耐震設計 (建屋:屋根トラス, 基礎版)	屋根トラス、基礎版の弾塑性解析においては、別途実施する建屋全体の3次元FEM等価線形モデルの評価結果を踏まえ説明する。	4条-別紙13-43	2019/2/14	③			
38	4条	耐震設計 (建屋:基礎版)	基礎版の評価において、既工認では梁要素でモデル化していた一部耐震壁をシェル要素でモデル化していることから、面外方向に発生する応力については、詳細設計段階でその影響について説明する。	4条-別紙14-8	2018/11/29	③	E	【E-7】	基礎版の評価に弾塑性解析を適用することは他社プラントでの新規制審査実績があるため
39			基礎版の評価において、シェル要素を用いた応力解析の検証の観点から、面外せん断応力が大きい場合には、詳細設計段階において代表ケースを選定してソリッド要素で基礎版をモデル化した解析を行い、モデル化手法による比較を行う。	4条-別紙14-31					
40			基礎版の評価における面外せん断力の許容値に荒川平均式等を適用する場合には、荒川平均式等を適用した場合における設備の支持性能について、地震によってコンクリートにひび割れが発生した場合の設備への影響を詳細設計段階で詳細に説明する。	4条-別紙14-35					
41	4条	耐震設計 (後施工せん断補強筋による耐震補強)	ディープビーム的な破壊形態が想定される部材へのCCb工法の適用性の補足確認として、ディープビームを対象とした実験を行い、その結果は詳細設計段階で示す。	4条-別紙16-添5-4	2018/11/20	③	C	【C-1】	設置変更許可審査で数値実験等により適用性を確認しているCCb工法について、補足実験結果の確認が主体となるため
42			面内荷重と面外荷重が作用する部材へのCCb工法の適用性の補足確認として、数値解析(静的材料非線形解析)を行い、その結果は詳細設計段階で示す。	4条-別紙16-添6-3					
43	4条	耐震設計 (水平2方向)	水平2方向及び鉛直地震力の組合せにおける影響検討は、SA施設等の一部について評価部位等を検討中であるため、設計が確定した段階で抽出、影響評価を行う。	4条-別紙3-37	2019/4/16	①	E	【E-8】	他社で水平2方向設計に係る共通的な設計評価に対する新規制審査実績があるため
44			SFPのスロッシング評価については、水平2方向の影響を説明する。	4条-別紙3-34					
45			水平2方向地震力の影響評価に関して、抽出結果及び評価結果については、詳細設計段階で説明する。 水平2方向の影響を軽微としている設備については、詳細設計段階で説明する。	4条-別紙3-1,37	2019/2/8	②			
46			燃料交換機については、鉛直地震動が従来の静的地震力から動的地震力へ変更となっていることを踏まえ、水平2方向及び鉛直方向同時加振を想定した場合の現行評価の妥当性について、詳細設計段階で説明する。	4条-別紙3-別1-45	2019/4/16	③			
47			代表以外の器具については、構造・型式等の観点から網羅的に整理し、影響が軽微であることを詳細設計段階で説明する。	4条-別紙3-別1-55					
48			弁の動的機能維持評価における高振動数領域を考慮した検討で適用するFRSは、20Hz以上の範囲について、20Hz以下の範囲でのFRS作成方法と同様に、建屋応答解析や大型機器連成解析から得られた地震応答を用いて算出する。	審査会合 PPT P13	2019/4/16	①			

工事計画認可申請に係る設置変更許可審査からの申送り事項

No.	条文	項目	内容	該当資料 (設置変更許可)	関連する 会合 or 日		説明項目		
							分類	管理No.	理由
49	4条	耐震設計 (動的機能維持評価)	動的機能維持評価において、詳細評価が必要となった設備については、詳細設計段階で説明する。	4条-別紙8-30	2019/3/5	③	E	【E-9】	他社で動的機能維持設計に係る共通的な設計評価に対する新規制審査実績があるため
50			動的機能維持評価が必要な設備の評価結果については、詳細設計段階で説明する。	4条-別紙8-3	2019/3/5				
51	4条	耐震設計 (門型クレーンへの非線形時刻歴応答解析の適用)	ASMEの規定(Time History Broadening)に基づく評価など、時刻歴応答解析の保守性に配慮した検討を行う。	4条-別紙9-12,13	2019/3/5	③	E	【E-10】	他社でクレーンに非線形時刻歴解析を適用した設計に係る共通的な設計評価に対する新規制審査実績があるため
52			構造部材の強度評価に加え、すべり量評価についても基準地震動Ss全7波における確認を行う。	4条-別紙9-参3-1					
53	4条	耐震設計 (燃料被覆管閉じ込め)	地震応答に対する燃料集合体の浮き上がりの影響について、詳細設計段階で説明する。	4条-別紙10-添3-3	2019/5/21	①	E	【E-11】	他社で燃料被覆管閉じ込め機能を考慮した設計に係る共通的な設計評価に対する新規制審査実績があるため
54			地震入力値算定での材料物性のばらつき及び水平2方向入力の影響について、詳細設計段階で説明する。	4条-別紙10-添3-2					
55			詳細評価(Ss/Sd 7波を用いた応力評価及び疲労評価の結果、評価の詳細手法)について、詳細設計段階で説明する。	4条-別紙10-1					
56	4条	耐震設計 (解析手法及び解析モデルの精緻化)	止水機能が要求される部材のひび割れによる影響評価方法について、詳細設計段階では面外荷重に加え、水平2方向同時入力の影響検討において、面内荷重も考慮して評価する。	4条-別紙15-添2-3	2019/5/21	③	C	【C-2】	設置変更許可審査で止水機能に対する許容限界を設定し、保守的な荷重条件での三次元材料非線形解析での試算を実施して成立性を確認しており、面内荷重を考慮した場合の影響や、構造物全体でモデル化した場合の設計荷重に対する詳細設計結果の確認が主体となるため
57			止水機能が要求される部材のひび割れによる影響評価方法について、試算として部材の一部をモデル化して評価するが、詳細設計段階では海水ポンプ室全体の三次元モデルにより評価する。	4条-別紙15-添2-5					
58	4条	耐震設計 (耐震評価における断面選定の考え方)	屋外重要土木構造物等及び津波防護施設の断面選定の考え方について、耐震評価候補断面の整理における地下水位は浸透流解析等の地下水位に係る検討結果を踏まえ、詳細設計段階で説明する。	4条-別添6-2	2019/5/21	③	A	【2-1】	女川特有の地下水位低下設備の機能を考慮した設計用地下水位の設定結果を踏まえ、各施設の解析手法や断面選定結果について新たな説明が必要となるため
59			屋外重要土木構造物等及び津波防護施設の断面選定の考え方について、耐震評価候補断面の整理と評価対象断面の選定結果については、詳細設計段階で説明する。	4条-別添6-4					
60	4条	耐震設計 (液状化)	盛土の追加液状化強度試験について、試料採取位置や試験結果、有効応力解析に用いる解析用物性値の設定結果等について説明する。	4条-別紙17-参7-1~2	2019/6/25	③	E	【E-12】	地盤の液状化強度特性について、試験方法や物性値の設定方法等について他社プラントでの新規制審査実績があるため
61	4条	耐震設計 (等価繰返し回数)	機器・配管系の疲労評価はJEAC4601-1987の手順のうち、等価繰返し回数をを用いた評価を基本とし、ピーク応力法を用いて算定する。	4条-別紙1-参3-1	2019/4/16	①	E	【E-13】	他社で等価繰返し回数を考慮した設計に係る共通的な設計評価に対する新規制審査実績があるため
62			等価繰返し回数の算定結果については、詳細設計段階で説明する。	4条-別紙1-参3-2	2019/6/25	③			
63	4条	耐震設計 (制御棒挿入性試験)	チャンネルボックスの弾塑性特性を考慮した場合の燃料集合体相対変位、挿入性への影響について説明する。	4条-別紙1-参5-12	2019/6/25	③	D	【D-2】	他社で制御棒挿入性を考慮した設計に対する新規制審査実績があるが、女川2号機向けの試験結果を用いて設定した確認済相対変位の設定の保守性等に対する説明が必要なため
64			制御棒挿入性試験の結果を踏まえた確認済相対変位を設定する際の保守性の考え方について説明する。	4条-別紙1-参5-12					

工事計画認可申請に係る設置変更許可審査からの申送り事項

No.	条文	項目	内容	該当資料 (設置変更許可)	関連する 会合 or ヒ7日		説明項目		
							分類	管理No.	理由
65			詳細設計段階で鉛直方向地震による影響について説明する。	4条-別紙8-33	2019/3/5				
66	4条	耐震設計 (3.11地震等の影響)	疲れ累積係数による疲労評価を実施する場合は、許容限界に対してある程度余裕が確保されていることについて、詳細設計段階で説明する。	4条-別紙1-参6-2	2019/6/25	③	B	【2-6】	設置変更許可審査で説明した詳細設計段階における対応方針(311地震等の影響を考慮した設計)に変更がなく追加検討項目がないが、具体的な評価結果を示す必要があるため
67			今回実施した機器・配管系の耐震設計への反映事項に係る検討の妥当性確認の観点で、新規基準に基づく工認対象設備(耐震Sクラスの未改造設備)について、耐震裕度を詳細設計段階で確認し、今回選定した評価対象設備への影響を確認する。	4条-別紙1-参6-36					
68	5条	耐津波設計 (漂流物)	漂流物衝突荷重については、詳細設計段階の条件を踏まえて設定する。	5条-別添1-II-4-58,添付22-6	2018/10/23	③	A	【2-5】	女川のサイト特性を考慮した漂流物の衝突形態及び漂流物衝突荷重算定式の整理を踏まえた荷重算定結果について、新たな説明が必要となるため
69	5条	耐津波設計 (入力津波)	発電所周辺における地形変化による入力津波への影響について、詳細設計段階での情報に対し評価を実施する。	5条-別添1-添付32-72	2019/3/12	③	C	【C-3】	設置変更許可審査で発電所周辺の復旧・改修工事(地形変化)による影響を考慮した入力津波評価結果を説明しており、その後の復旧・改修工事計画に変更がなく、評価結果の確認が主体となるため
70			管路解析において、津波水位と管路内の流れについて、詳細設計段階で説明する。	5条-別添1-添付6-87~95	2019/6/25	①	E	【E-14】	入力津波算定過程における取放水路内の管路解析について、新規審査実績のある他社プラントと同様の手法による確認結果を説明するものであるため
71	5条	耐津波設計 (防潮堤)	鋼管式鉛直壁(一般部)において、役割を期待しない盛土斜面が変状した場合の影響評価を行う。	5条-別添1-添付24-13.60	2019/1/15	③	C	【C-4】	設置変更許可審査で具体的な数値をもって設計成立性を確認している防潮堤について、周辺地形や地下水位のバラストの影響が小さいことを確認するため
72			防潮堤山側の地下水位が岩盤表面まで低下した場合の影響評価を行う。	5条-別添1-添付24-62.139					
73	37条	津波PRA (防潮堤)	O.P.+33.9m津波時において防潮堤の鋼製遮水壁の評価を詳細設計段階で説明する。	シーケンス選定 別紙7 津波PRA 別紙3.2.2.d	2019/6/20	①	C	【C-5】	設置変更許可審査で33.9m津波に対する耐性確認結果を具体的な数値をもって説明している防潮堤について、クライテリア等の条件を変更せずに詳細評価結果の確認が主体となるため
74	5条	耐津波設計 (防潮壁)	防潮壁に使用する止水ジョイントの空気加熱老化試験について、先行プラント又は同様の試験と比較した上で妥当性を説明する。	5条-別添1-添付33-53~57	2018/12/18	③	E	【E-15】	防潮壁に使用する止水ジョイントのクライテリアや試験頻度等について、審査実績のある他社プラントと同様の方針での検討結果を説明するため
75			供用段階で実施する支承ゴム、止水ジョイントの暴露試験の試験頻度について、詳細設計や劣化予測試験結果等を踏まえ説明する。	5条-別添1-添付33-55,58	2019/3/12	③			
76	5条	耐津波設計 (防潮堤・防潮壁)	防潮堤・防潮壁において、詳細設計段階で提示予定と説明していた項目(SF-2断層が防潮堤に与える影響、津波時解析におけるSsによる地盤剛性の影響、地盤物性のばらつき影響等)の具体的な検討結果を耐震計算書等に記載する。	5条-別添1-添付24-60~63,添付33-7	2019/6/25	③	B	【2-8】	防潮堤に対する断層横断部の影響や、地盤物性のばらつき影響評価等について、詳細設計の対応方針に変更等ないものの、詳細設計の結果を説明する必要があるため

工事計画認可申請に係る設置変更許可審査からの申送り事項

No.	条文	項目	内容	該当資料 (設置変更許可)	関連する 会合 or 日		説明項目		
							分類	管理No.	理由
77	技術的能力 1.0.2	保管場所・ アクセスルート	保管場所、アクセスルートの障害となり得る周辺構造物の影響評価方針を網羅的に提示する。	添付資料1.0.2-別紙10	2019/2/28	③	E	【E-16】	他社で新規審査実績と同様の方針としている。設置許可段階で詳細設計段階における設計方針について説明しており、これらの設計方針に変更はないため
78	53条	水素爆発による原子炉 建屋等の損傷を防止す るための設備	大物搬入口ハッチが地震により開動作しないことの説明について、詳細設計段階で説明する。	審査会合 PPT P7	2019/4/4	①	E	【E-17】	他社で同様設備の新規審査実績があるため
79	59条	運転員が原子炉制御 室にとどまるための設 備	原子炉建屋ブローアウトパネル閉止装置の要求機能に対する基本設計方針(適合方針)及び設計状況の詳細は、詳細設計段階で説明する。	審査会合 PPT P16	2019/4/23	①	B	【2-9】	原子炉建屋ブローアウトパネル閉止装置は扉方式を採用し、女川2号の特有な構造を有している。設置許可段階で説明した詳細設計方針に変更はないものの、加振試験等の詳細設計の結果について説明が必要であるため
80			原子炉建屋ブローアウトパネル閉止装置について、加振試験を実施し、その結果等を整理のうえ、詳細設計段階で説明する。	指摘事項に対する回答一覧表 P5	2019/5/30	①			
81			原子炉建屋ブローアウトパネルの詳細設計における確認事項については、詳細設計段階で説明する。	まとめ資料 重大事故等対処設備について(補足説明資料) P59-12-16~18	2019/7/4	③	E	【E-18】	原子炉建屋ブローアウトパネルの評価方法について他社プラントでの新規審査実績があるため
82	5条	耐津波設計 (流路縮小工)	取放水路流路縮小工について、女川2号炉の外郭浸水防護設備として工事計画認可申請を実施する。なお、女川1号炉の機能を維持すべき施設に影響を及ぼさないことについては、1号廃止措置審査にて詳細説明済。	審査会合 PPT P3	2019/7/30	①	C	【C-6】	2号機工事計画に反映した取放水路流路縮小工について、設置変更許可審査で具体的数値をもって設計成立性を説明しているとともに、1号廃止措置審査時に1号機施設への影響評価結果を説明しており、詳細設計段階での計算結果の確認が主体となるため
83	37条	溶融燃料-冷却材相 互作用(FCI)	FCIIに対する更なる安全性向上対策として自主的に設置するコリウムバッファについて、他への悪影響がないことを詳細設計段階で説明する。	有効性評価-補足43	2019/11/15	③	分類外	【その他-1】	自主対策設備のため